

韓国環境部プレスリリース 2020 年 1 月 24 日付

江原道の野生いのしし弊死体から ASF ウイルス検出 (野生いのしし 106 例目)

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1215685&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は江原道（カンウォンド）華川郡（ファチョンゲン）華川邑（ファチョンウプ）広域フェンスの中で発見された野生いのししの死体から ASF ウイルスが検出されたと 1 月 24 日明らかにした。

死体は 1 月 23 日豊山里（プンサンリ）の山を搜索した環境部搜索チームによって発見された。華川郡（ファチョンゲン）は野生いのしし ASF 標準行動指針により試料を採取して現場消毒と共に死体を処理した。

国立環境科学院は 1 月 24 日死体から ASF ウイルスを検出したことを関係機関に通知した。これで華川郡（ファチョンゲン）では 17 件の野生いのしし ASF 陽性事例となり、全国的には 106 件になった。

国立環境科学院生物安全研究チーム長は“今回の死体は設置中である 1 次フェンス内で発見された”として、“フェンスを早く完工して周辺地域搜索を徹底する”と話した。

以上